

1. 新しい共同研究の推進。具体的には、より良い研究上のパートナーを見出し、優れた研究アイデアの創生に寄与できる。
2. これまで埋もれていた生物資源が利用できる環境が整備され、実験動物の利用の効率化に寄与できる。
3. 従来と異なった用途の開発ができる。
4. 生物資源の所在情報を提供することで、資源を用いて研究仮説を試す機会が創生される。
5. 本研究事業が収集を行っているヒト由来研究資源の所在情報との連携により、実験動物の情報についてもヒト疾患、創薬という切り口からの検索が可能になる。

このような情報の収集とともに、ヒト疾患研究に寄与する生物資源とその情報の流通を推進するための共有体制の考え方や書類整備を行っております。ヒト由来研究資源の場合は主に倫理といわれる分野の問題、また実験動物の場合は主に権利関係の調整という問題を抱えております。本研究事業においては、インフォームド・コンセントやMTA・特許などの問題について資料を収集、分析し、研究基盤の構築に必要な文書資料や考え方の充実を図っております。本アンケートとともに配布された参考情報「実験動物の研究開発と特許問題をめぐる最近の動き」はそのような研究活動の成果です。

大学等の独立行政法人化の流れは機関が保有する生物資源の権利関係を複雑なものにしております。平成11年のアンケートの時とそれぞれの先生方の状況は異なっていることと存じます。しかし知的所有権の主張と同時に研究が促進され、その成果が社会に役立つためには生物資源の共有と活用の推進は不可欠であると考えております。大規模な生物資源の統合化は海外においても加速されております。日本の生物資源が埋もれることなく、その使命を果たしてヒト疾患の研究に寄与することを希いながら本研究事業を進めております。

本研究事業の趣旨をご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本アンケートの発送ならびに集計をエム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株)に委託して実施しております。

【厚生労働科学研究 厚生科学基盤研究分野 創薬基盤推進研究(生物資源・創薬モデル動物研究推進事業)「生物資源研究事業の企画及び生物資源の所在情報等に関するデータベースの構築に関する研究」(H19-生物資源-003) :

主任研究者:独立行政法人医薬基盤研究所 水澤 博

大学や試験研究機関（以下「大学等」）での研究が、特許侵害で訴えられるケースは国内では聞きません。海外でも 1990 年代のミリアッド社（米国）の徹底的な特許戦略（BRCA1 の診断的使用に関して大学等に特許使用料の請求を行ったケース）が企業にとって何の利益も生まないものであり、却って企業イメージの低下をもたらしたことから、大学等の研究での特許侵害に対する考え方を緩める姿勢がかなり前から起こっています。

以上を踏まえ、また、以下に解説する経緯から、産学官連携が強力に推進される場合を除いて大学等での特許侵害が問題となる可能性は低く、既存の特許技術を用いた実験動物の情報がデータベース上に掲載されることが問題になる場合は少ないと考えられます。

以下に基礎情報を示します。

1. 特許を含む知的財産に関する姿勢が急速に育ってきた背景には政府の以下のような動きがありました。政府の主導で 2002 年に「知的財産戦略会議」が設置され、その夏には、「知的財産戦略大綱」が公表され、2002 年の末に「知的財産基本法」の成立、2003 年の施行と同時に「知的財産戦略本部」が設置されるという一連の動きによって、知的財産や特許ということが注目を浴びてきました。
2. 一般には特許は企業の問題であり、大学等は「特許」の問題と関係ないと考えられています。実態はそのとおりです。その理由としては以下のようなことが考えられます。
 - ① 大学等の研究環境では資金が乏しいこと。
 - ② 特許技術を使った研究が大学等で進むことはその技術の価値を高めるので、その成果が企業化されるまで待つことが得策であること。
 - ③ 先に述べたミリアッド社の場合のように、大学等への特許使用料の請求は企業イメージの低下をもたらすものの、実質的な利益を生むものではないこと。
3. 同時に一つ知っておくべきことは、日本の特許法は企業と大学等の研究活動を区別せず特許権の及ぶ範囲としていることです。そのために、大学等が特許技術を使った研究成果を営利目的で使用したり、企業への譲渡を行ったりした場合には、特許使用料の請求が起きると考えられています。
4. さらに、総合科学技術会議はリサーチツールである特許技術の使用について、無償での提供（大学等間の場合）が望ましいとするとともに、ライセンス条件等に関する情報が広く公開される必要があるとしています。

以上

【厚生労働科学研究 厚生科学基盤研究分野 創薬基盤推進研究（生物資源・創薬モデル動物研究推進事業）「生物資源研究事業の企画及び生物資源の所在情報等に関するデータベースの構築に関する研究」（H19-生物資源-003）：2008 年 文責増井徹

- (1) ご回答は、該当する選択肢に○をつけていただくか、所定の回答欄にご記入ください。Web 上でのご回答は、Web 上の指示をご覧ください。
- (2) 回答用紙は同封した封筒での郵送、或いは Web 上でのご回答は、2月20日（金曜日）までお願いいたします。
- (3) 「本アンケートにおける個人情報の取り扱いについて」にご同意の上、ご回答ください。なお、発送先につきましては、公開情報を用いて収集しております。
- (4) ご不明な点、お問い合わせなどがありましたら、下記までご連絡ください。

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ 7-6-8

独立行政法人医薬基盤研究所生物資源研究部門 JCRB 細胞バンク
増井徹

Tel. 072-641-9820, FAX. 072-641-9851

E-mail : masui@nibio.go.jp

【個人情報に関する記載】

本アンケートにおける個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報の取扱いに関する弊社の基本姿勢

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社は、JIS Q 15001 に準拠した個人情報の取扱いを行っております。ご回答者の個人情報は、弊社が定める「個人情報保護方針」に則り、適切な保護措置を講じ、厳重に管理いたします。

2. ご回答者の個人情報の利用目的

ご回答者の個人情報は以下の目的のために利用させていただきます。下記以外の目的で個人情報を利用する場合は、改めて目的をお知らせし、同意を得るものといたします。

目的: 独立行政法人医薬基盤研究所より、実験動物の所在情報についてお伺いする際の連絡先として利用させていただきます。

3. ご回答者の個人情報の提供

ご回答者の個人情報については、本アンケートの業務委託元である独立行政法人医薬基盤研究所・生物資源研究部に、以下の目的により提供を予定しています。

提供先: 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ 7-6-8 独立行政法人医薬基盤研究所・生物資源研究部
目的: 実験動物の所在情報(ヒト疾患研究のための生物資源の所在情報データベースの作成とその利用枠組みの提案)についてお伺いする際の連絡先として利用させていただきます。

提供する個人情報の項目: 本アンケートの送付先である住所、機関名、部署名・役職、お名前、電話番号、メールアドレス

提供の手段又は方法: 電子ファイル

4. ご回答者の個人情報の委託

ご回答者の個人情報について、外部委託事業者へ個人情報を取り扱う業務を委託する予定があります。その際には、必要な契約を締結し、弊社の従業員に対するのと同様の管理を行います。

5. ご回答者の個人情報の利用終了後の措置(個人情報の保管期間)

アンケート個票につきましては、委託業務終了後は、委託業務者(顧客)である独立行政法人医薬基盤研究所に提供致しますので、提供した後の個人情報については、独立行政法人医薬基盤研究所の管理範囲になります。また、当該業務終了後は、エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社内の個人情報については責任をもって廃棄いたしますので、エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社には個人情報は一切残りません。

6. ご回答者が個人情報を弊社に与えることの任意性について

ご回答された方が、個人名の記載を希望されない場合には、個人名の部分につきまして空欄でも構いません。

7. 個人情報に関するご連絡先

①個人情報保護管理者: エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
事業統括室 田中 清一

②苦情・相談窓口: 総務部

電話: 03-3518-8430 FAX: 03-3518-8434

お問合せフォーム: http://www.mri-ra.co.jp/inq/inq_01.html

お問合せ番号: 2-0130-01Yu

アンケート調査のご回答の要領

- (1) 同封の内容物をご確認ください。5点ございます。
- ① 白色の紙：「実験動物の所在情報に関するアンケートへのご協力をお願い」
 - ② 桃色の紙：「アンケート調査のご回答の要領」
 - ③ 黄色の紙：「平成 11 年の調査でご提供頂いたデータ」及び「ID 番号・パスワード」
 - ④ 水色の紙：「アンケート回答用紙」
 - ⑤ 返信用封筒
- (2) ①白色の紙「アンケートへのご協力をお願い」をよくお読みください。
- (3) ③黄色の紙に記載された「平成 11 年の調査でご提供頂いたデータ」をご確認ください。ID 番号とパスワードが記載されております。
- (4) 回答方法は 2 つございます。どちらかの方法でご回答ください。
- ◎ ④水色の紙「アンケート回答用紙」に記入し、⑤返信用封筒で返信。
 - ◎ (6) の手順により、Web 上で回答。
- (5) 「アンケート回答用紙」で回答される場合で、データの改訂がある場合には、③黄色の紙の「平成 11 年の調査でご提供頂いたデータ」に手書きで修正をお願いいたします。
- (6) Web 上でご回答いただく場合は、
URL <http://mbrdb.nibio.go.jp/enquete/index.html> にアクセスし、
③黄色の紙末尾に記載された「ID 番号・パスワード」で中に入り、アンケート回答画面の表示にしたがってご回答ください。データの改訂がある場合には、この画面での修正が可能です。ご回答が完了されましたら、ログアウトボタンを押してください。データが確定されます。

以上

ご提供いただいた情報の公開について

- ◎ 実験動物の情報公開をご承諾いただいた場合には、全てのデータベースの閲覧が可能です。本研究班終了後（平成 22 年 4 月以降）は、閲覧希望者に所属研究機関のメールアドレスから申請していただき、承認された登録者のみが閲覧できます。承認された登録者には閲覧のための ID とパスワードが発行されます。

- ◎ 無許可での第三者への情報開示等、管理者（増井徹、独立行政法人医薬基盤研究所）が不適切と判断する情報の取扱いを登録者が行った場合には、管理者の責務において当該登録者の閲覧許可を取り消します。

データ番号	対象疾患	国際症	発症形式	系統名	別名	対症遺伝子	特徴	開発施設	文献/出入	分子の可否	分子形態	研究位置の扱い	提供機関	担当者
274	子宮内胎死産症	マウス	ノックアウト	C57BL/6J(129- Ola)- mPTEneo	mPTEneo	10週胎仔に子鼠入 宮内胎死産症。			東北大・加藤研 鈴木順徳	条件付可	SPF	系統別	徳島大学	
365		マウス	ノックイン	CAG-CAT-Z25	LacZ	Crelによる組み 替えでLacZ発 現	自家開発		J. Blochem., 122, 977-982 (1997)	条件付可	胚, 精子		徳島大学	
366		マウス	過剰発現	CAG-CAT-Z34	LacZ	Crelによる組み 替えでLacZ発 現	自家開発		Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 92, 160- 164 (1995)	条件付可	胚, 精子		徳島大学	
367		マウス	過剰発現	Ayul-NLS LacZ-26	LacZ	LacZ overexpression	自家開発		Dev. Growth Differ., 36, 521-527 (1994)	条件付可	胚		徳島大学	

ID番号 (半角数字3桁)	055
パスワード (半角英小文字)	b0p00

アンケート回答用紙

1. ご連絡先に関する情報について

個人情報のお取り扱いにつきましては、「ご記入に際してのお願い」下部の「本アンケートにおける個人情報の取り扱いについて」を熟読ください。

(1) ご回答者のプロフィール

【機関名】 _____

【所在地】 _____

(ふりがな)

【お名前】 _____

【電話番号】 _____

【Eメールアドレス】 _____

(2) 今後の連絡についてお伺いします。

生物資源の所在情報等に関するデータベース構築の推進に活用させていただく目的で、後日、ご回答内容について詳しくお伺いすることは可能ですか？

(当てはまるものに○をつけてください。)

はい ・ いいえ

2. 平成11年(1999年)度「疾患モデル動物の維持、分与等に関する調査」(財団法人ヒューマンサイエンス振興財団)に収集された実験動物についてお伺いいたします。

(1) 平成11年の調査で提供していただいた情報をデータベース化してWeb上で公開することにご承諾いただけますでしょうか。(どちらかに○をつけてください。)

はい ・ いいえ

- ◎ 「はい」とお答えいただいた方は(2)以下へお進みください。
- ◎ 「いいえ」とお答えいただいた方からの実験動物情報は、データベースより削除させていただきます。「いいえ」とお答えいただいた方は、3.へお進みください。

- 平成11年(1999年)に提供していただいた情報について、改正すべき点はありませんでしょうか。
- (例えば、権利関係の変更、管理者の異動、文献情報、表現型情報の追加など)

ある ・ ない

- (3) 平成11年(1999年)度の調査でご提供していただいた情報は同封の提供情報一覧表(黄色)で確かめられます。

- ① <http://mbrdb.nibio.go.jp/enquete/index.html>のURLにアクセスしていただき、黄色紙に記載のID、パスワードでアンケート回答サイトに入る。
- ② 「登録実験動物情報の確認・変更・削除」画面でご自分のデータの確認・変更・削除を行うことができます。
- ③ 操作終了後、登録いただくと削除或いは変更済の表示が提供データの最初の列に表示されます。
- ④ また、全体のデータを閲覧する(閲覧のみ、変更等不可)ことができます。(Web上のインストラクションにしてください)

不明な点がございましたら、masui@nibio.go.jpへご連絡ください。

3. 新規の情報提供に関しておたずねいたします。

- (1) 新規の実験動物の情報について登録をお願いできますか。

はい ・ いいえ

- (2) 「はい」とお答えになった方は、「新規実験動物調査票」にご回答ください。

- ◎ Web上でのご回答の場合は、「実験動物情報の新規登録」画面で登録をお願いいたします。回答画面は操作により増やすことができます。(Web上のインストラクションにしてください)

下記は 年 月現在の状況です。(年月をご記入ください)

◎ アンケート用紙での回答で、複数の実験動物についてご回答いただく場合は、お手数ですが、「新規実験動物調査票」をコピーいただきますようお願いいたします。

新規実験動物調査票

項目	回答欄	
(1) 動物種		
(2) 系統名		
(3) 別名 (通称名)		
(4) 対象疾患名 (例:糖尿病、高血圧、異常なし 等)		
(5) 特徴 (例:どのような目的のために開発され、それは研究プロジェクトでどのような位置づけであるか 等)		
(6) 発症形式 (該当する項目に○を付けてください。) (「対象遺伝子名」、「誘発物質」を具体的にご記入ください。)	1. 自然発症	モデル名:
	2. トランスジェニック	
	改変遺伝子名	
	3. ノックアウト	
	改変遺伝子名	
	4. 人為誘発	
	方法 (例:化学物質誘発など)	
(7) 論文・特許		
(8) 当該動物の担当者名をご記入ください。 担当者名: E-Mail:		
(9) 備考欄		

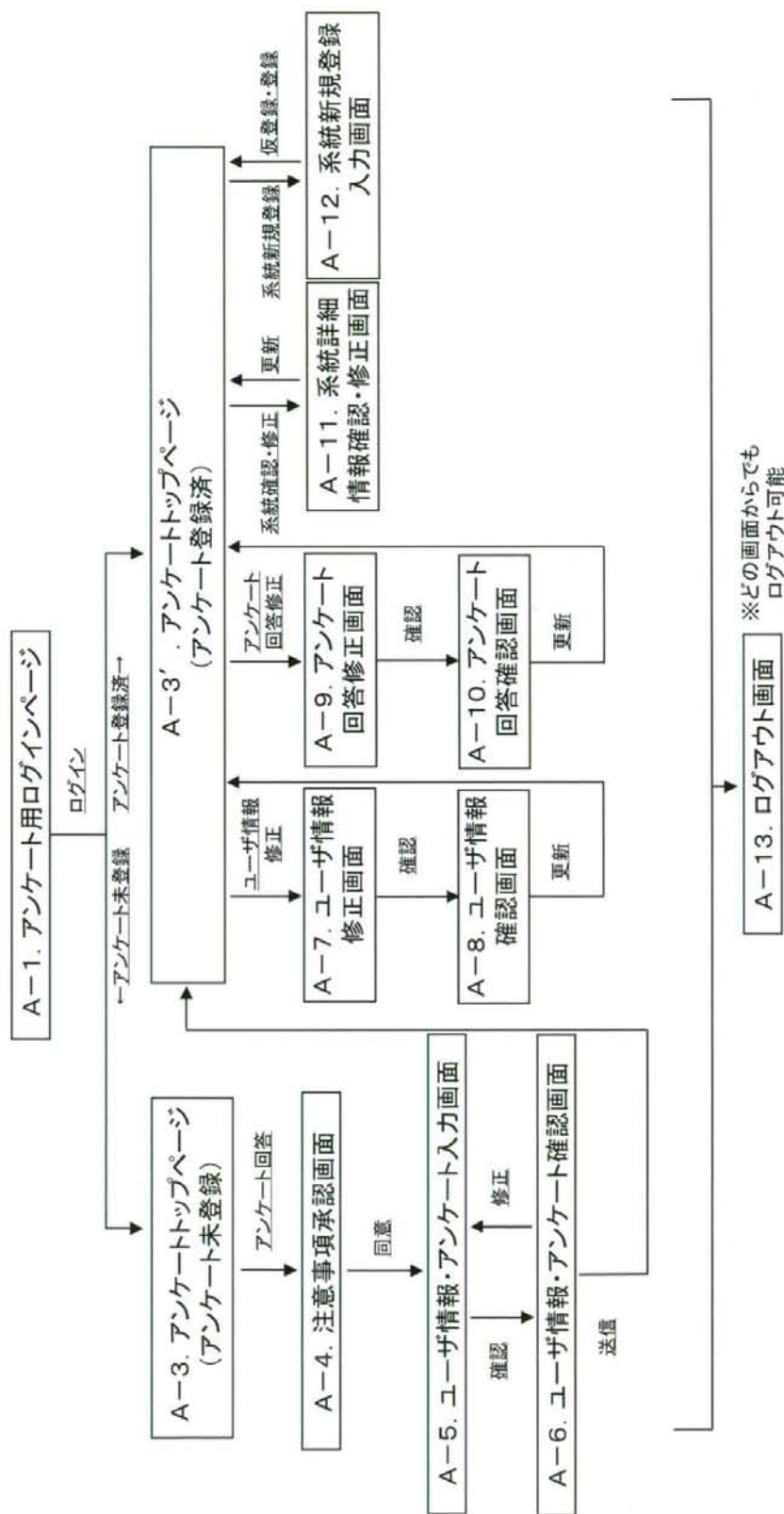
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

実験動物アンケート回答集計

(2009,3,31)

(回収状況)	(数)	
発送数	190名	
回収数	93名	
未回収数	84名	
宛先不明で返送	13名	
(回答方法)		
WEB	55名	
郵送	29名	
WEBと郵送	9名	
合計	93名	
(平成11年度データの取扱)		
平成11年度データ延べ件数	969件	
公開承認数	200件	
公開非承認数	203件	(38名)
削除	146件	
アンケート無回答	420件	(97名)
(新規登録数)	185件	
(公開予定実験動物系統数)	385件	

メディカルバイオリソースDB:アンケート受付処理フロー



ようこそ、管理者 さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

トップページ

リメ[ス検索 - カテゴリーから調べる

このDBについて

お知らせ

リソース検索

ユーザID申請

リンク

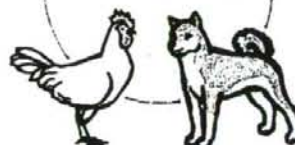
ヒト(器官別)

実験動物

- 脈管系
- 消化器系
- 呼吸器系
- 泌尿器系
- 生殖器系
- 内分泌系
- 皮膚
- 感覚器系
- 神経系



動物(疾患モデル)



疫学データ(準備中)



疫学データ

リメ[ス検索 - 登録語句から調べる

器官検索

検索

より詳細な検索はこちらへ

全文検索

検索

独立行政法人 医薬基盤研究所
〒567-0085 大阪府茨木市影都あさぎ7丁目6番8号
TEL:072-641-9811 FAX:072-641-9812

ようこそ、管理者 さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

トップページ

リソース検索 - 実験動物

このDBについて

お知らせ

リソース検索

ユーザID申請

リンク

実験動物



○ イヌ



○ ゼブラフィッシュ



○ マウス



○ ウサギ



○ チャイニーズハムスター



○ マストミス



○ シリアンゴールデンハムスター



○ ニホンウズラ



○ モルモット



○ スナネズミ



○ ニワトリ



○ ラット



○ スンクス



○ ハムスター

リソース検索 - 登録語句から調べる

器官検索

検索

より詳細な検索はこちらへ

全文検索

検索

独立行政法人 医薬基盤研究所
〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目6番8号
TEL:072-641-9811 FAX:072-641-9812

ようこそ、管理者さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

トップページ

リソース検索

このDBについて

お知らせ

リソース検索

ユーザID申請

リンク

検索結果

データ番号	試料の分類	動物種	疾患/健常	病名	由来	量
28	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	高脂血症、動脈硬化	1. 生体	
30	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	生活習慣病	1. 生体	
33	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	糖尿病	1. 生体	
40	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	糖尿病	1. 生体	
48	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	副腎白質ジストロフィー	1. 生体	
53	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル		1. 生体	
65	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	動脈硬化	1. 生体	
69	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	動脈硬化	1. 生体	
71	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	動脈硬化、高血圧	1. 生体	
72	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル		1. 生体	
81	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	B型肝炎	1. 生体	
85	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	C型肝炎	1. 生体	
88	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	萎縮性胃炎	1. 生体	
90	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	巨大結腸症NID	1. 生体	
101	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	運動ニューロン病、筋萎縮性側索硬化症	1. 生体	
104	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル		1. 生体	
109	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル		1. 生体	
118	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	神経疾患	1. 生体	
120	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	精神疾患	1. 生体	
121	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	精神神経疾患	1. 生体	
137	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	骨粗鬆症	1. 生体	
141	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル		1. 生体	
143	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	前歯欠損	1. 生体	
145	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	メラノサイト増多症	1. 生体	
146	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	メラノサイト増多症	1. 生体	
153	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	眼内血管新生モデル(網膜血管新生)	1. 生体	
165	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	アレルギー、炎症	1. 生体	
169	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	アレルギー疾患、好酸球増多症	1. 生体	
175	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	移植免疫、糖尿病	1. 生体	
176	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	炎症	1. 生体	
199	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	免疫	1. 生体	
215	4. 実験動物	マウス	3. 疾患モデル	免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー性	1. 生体	

ようこそ、管理者 さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

[トップページ](#)

[リソース検索](#)

[このDBIについて](#)

[お知らせ](#)

[リソース検索](#)

[ユーザID申請](#)

[リンク](#)

リソース詳細情報

項目名	内容	メモ
日付	2008-03-27	
データ番号	28	
改訂回数	0	
試料の分類	4. 実験動物	
名称		
動物種	マウス	
疾患/健常	3. 疾患モデル	
病名	高脂血症、動脈硬化	
由来	1. 生体	
保存形態(増殖可能性)		
保存温度		
添付情報	Jackson Lab.(米園)	
量		
所在機関名	鹿児島大学	
研究機関名		
連絡先住所: 〒		
連絡先住所: 住所		
管理者名: 氏名		
管理者連絡先: 所属		
管理者連絡先: 電話		
管理者連絡先: FAX		
管理者連絡先: メール		
責任者名: 氏名		
責任者連絡先: 所属		
責任者連絡先: 電話		
責任者連絡先: メール		
収集時期		
収集開始		
収集終了		
収集時のIC		
資源の利用可能範囲		
資源提供時の条件	条件付可	
試料提供機関		

収集時の資金
 研究費名
 研究利用終了後の処理
 保存資料の利用条件
 品質管理項目
 資源の整理・管理の状況
 保存、維持に関する資金
 研究費名
 特許出願の有無
 知財に関する連絡先:氏名
 知財に関する連絡先:所属
 知財に関する連絡先:電話
 知財に関する連絡先:FAX
 知財に関する連絡先:メール
 公的バンクへの寄託可能性
 寄託に際しての条件
 使用例および有用性

自由記述(テキスト)

系統名: アポ蛋白E欠損マウス
 分与形態: SPF
 研究成果の扱い: 分与時に契約
 開発形態: 導入
 発症形式: ノックアウト
 対象遺伝子: ApoE
 特徴: 普通食及び高脂食にて、コレステロールと中性脂肪の高値を呈し、ヒトと同様の動脈硬化病変を形成。

全体メモ

改訂メモ

[前のページに戻る](#)

独立行政法人 医薬基盤研究所
 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目6番8号
 TEL:072-641-9811 FAX:072-641-9812

ようこそ、管理者 さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

[トップページ](#)[このDBについて](#)[お知らせ](#)[リソース検索](#)[ユーザID申請](#)[リンク](#)

リソース検索

検索結果

データ番号	試料の分類	動物種	疾患/健常	病名	由来	量
392	4. 実験動物	ウサギ	3. 疾患モデル	高コレステロール血症、動脈硬化、心筋梗塞、黄色腫	1.	生体
504	4. 実験動物	ウサギ	3. 疾患モデル	動脈硬化	1.	生体
505	4. 実験動物	ウサギ	3. 疾患モデル	動脈硬化	1.	生体

[前のページに戻る](#)独立行政法人 医薬基盤研究所
〒567-0085 大阪府茨木市影都あさぎ7丁目6番8号
TEL:072-641-9811 FAX:072-641-9812

ようこそ、管理者 さん。ログアウト

最終更新日: 2009年03月30日

トップページ

リソース検索

このDBについて

お知らせ

リソース検索

ユーザID申請

リンク

リソース詳細情報

項目名	内容	メモ
日付	2008-03-27	
データ番号	392	
改訂回数	0	
試料の分類	4. 実験動物	
名称		
動物種	ウサギ	
疾患/健常	3. 疾患モデル	
病名	高コレステロール血症、動脈硬化、 心筋梗塞、黄色腫	
由来	1. 生体	
保存形態(増殖可能性)		
保存温度		
添付情報	Atherosclerosis, 36, 261-268 (1980)Atherosclerosis, 96, 43-52 (1992)	
量		
所在機関名	神戸大学	
研究機関名		
連絡先住所: 〒		
連絡先住所: 住所		
管理者名: 氏名		
管理者連絡先: 所属		
管理者連絡先: 電話		
管理者連絡先: FAX		
管理者連絡先: メール		
責任者名: 氏名		
責任者連絡先: 所属		
責任者連絡先: 電話		
責任者連絡先: メール		
収集時期		
収集開始		
収集終了		
収集時のIC		
資源の利用可能範囲		

資源提供時の条件 条件付可
 試料提供機関
 収集時の資金
 研究費名
 研究利用終了後の処理
 保存資料の利用条件
 品質管理項目
 資源の整理・管理の状況
 保存、維持に関する資金
 研究費名
 特許出願の有無
 知財に関する連絡先:氏名
 知財に関する連絡先:所属
 知財に関する連絡先:電話
 知財に関する連絡先:FAX
 知財に関する連絡先:メール
 公的バンクへの寄託可能性
 寄託に際しての条件
 使用例および有用性

系統名:WHHL
 分与形態:Conv.
 開発形態:自家開発
 特徴:(1)冠状動脈に重度の動脈硬化を多発。(2)心筋梗塞を発症。(3)加齢による血清コレステロールの低下が比較的少ない。

自由記述(テキスト)

全体メモ

改訂メモ

[前のページに戻る](#)

独立行政法人 医薬基盤研究所
 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目6番8号
 TEL:072-641-9811 FAX:072-641-9812

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
増井徹	「米国国立がん研究所ヒト生物資源保管施設のための実務要領」	NCI	National Cancer Institute Best Practices for Biospecimen Resources, June2007	National Cancer Institute		2009年	
増井徹	1章・6 細胞培養の倫理問題, 特許	黒木登志夫 許南浩、中村幸夫	改訂 培養細胞実験ハンドブック	羊土社		2008年	pp49-54
増井徹	第2章 「ヒトの生物学としての医学の時代」	共著	生命科学と法	尚学社	東京	2008年	pp16-31
増井徹	第3章 「ヒトゲノム研究とその周辺」	共著	生命科学と法	尚学社	東京	2008年	pp32-50
増井徹	第4章 「医学・生物学における問題の所在」	共著	生命科学と法	尚学社	東京	2008年	pp51-71
増井徹	第5章 「見も知らぬ彼らの未来のために」	共著	生命科学と法	尚学社	東京	2008年	pp72-86
Masui, T	Trust and Creation of Biobanks: biobanking in Japan and the UK.	M. Sleeboon-Faulkner	<i>Human Genetic Biobanks in Asia: Politics of Trust and Scientific Advancement, Routledge Contemporary Asia Series</i>	Routledge	London	2008	Pp66-91

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					